Ⅱ　最新情報　県内の各教育委員会等

金山林遺跡（かねやまばやしいせき）　（山梨市教育委員会・山梨文化財研究所）

８号住居「山梨」墨書土器出土状況

笛吹川による扇状地形が、重川によって形成された河岸段丘端部に立地しています。

調査の結果、縄文時代中期・弥生時代後期・古墳時代前期各１軒、平安時代６軒の竪穴住居のほか、掘立柱建物跡１棟、溝、土坑などを発見しました。

縄文時代中期後半の竪穴住居では、逆位の埋甕内から土鈴が発見され、奥壁際に埋められた土器の中からは黒曜石の原石が入れられており、住居で石器の製作を行っていたことが確認されました。

平安時代の住居跡は、９世紀後半代を中心としており、そのうちの１軒からは、「山梨」と墨書された土師器坏が発見されました。

この「山梨」墨書土器が、何を表記したものか断定できませんが、郷名を記したものであるとするならば、古代山梨郡の郷比定に重要な資料を提示したと言えます。

弥生時代後期の壺棺墓（30土坑）

中原遺跡（なかはらいせき）　（北杜市教育委員会）

中原遺跡は八ヶ岳南麓中央の南北に細長く伸びる尾根上に位置します。調査区は遺跡の北側にあたり、宅地造成工事及び個人住宅建築等に伴って平成27年から５次にわたり発掘調査が行われてきました。

これまでの調査で周溝墓17基、土坑、ピットが発見されました。

主な出土遺物は弥生時代の壺・甕などで、これらの出土遺物から、いずれの周溝墓も弥生時代後期に造られたと考えられます。

第５次調査（令和元年）では、方形周溝墓に重複する土坑からこの時期の壺棺墓も出土しました。

今回の調査で、八ヶ岳南麓では２例目となる弥生時代後期の周溝墓群の存在が明らかになりました。この時期の遺跡発見例の少ないこの地域にとって、当時の様子をうかがえる貴重な資料です。

御岳田遺跡（みたけだいせき）（第10次）　（甲斐市教育委員会）

御岳田遺跡はＪＲ竜王駅から北へ約1.5㎞の甲斐市大下条地区の住宅街に立地し、標高288ｍに位置しています。

今回の発掘調査は店舗建設に先立ち調査が行われ、調査の成果としては弥生時代の竪穴建物跡１軒、古墳時代の竪穴建物跡３軒、周溝墓５基、平安時代の竪穴建物跡14軒、中世の土壙墓１基をはじめとして、溝状遺構８条、竪穴状遺構３基などが発見されました。詳細な年代は、次年度の整理分析作業まで検討中です。

展示されている土器の中で、土器に墨書きされたものを墨書土器と呼びます。墨書土器は漢字や記号のようなものが書かれており、今回の調査では８号竪穴建物跡で多く発見され、８号竪穴建物跡の南壁付近に集中して出土した特徴がありました。墨書の文字はイベンとすると「得」が連想されるものが１点あり、あとは判読不明の墨書土器が発見されました。

今回の発掘調査は、限られた調査範囲でありましたが、今次調査区で人が生活するようになるのは弥生時代後期（１号住居）から始まり、古墳時代前期になると周溝墓を造り、古墳時代後期には住居を造られ、平安時代になると古墳時代に造った周溝墓の一部を壊して、住居を造り生活を営む様相が見られました。

３号建物跡遺物出土状況